

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K04143

研究課題名（和文）グローバル化時代の映像社会学の課題と展開 -映像アーカイブを用いた共有知の研究-

研究課題名（英文）The task of visual sociology and its improvement in the globalization era; A study of common knowledge via visual archive.

研究代表者

石田 佐恵子 (Ishita, Saeko)

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70212884

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル化時代における日本の映像社会学の本格的な構想と分野としての確立とを目指して、総合的な見地から公的映像アーカイブ群の公開を模索し、同時に、学術的な方法論の精緻化と国際的な研究成果発信を目的に企画立案された。I. 国内外における映像アーカイブズの基礎的資料収集と調査、II. 映像アーカイブズの構築完成と公開、III. 映像社会学の個別主題確定と方法論の探求、IV. シンポジウムの開催と公的映像アーカイブズへの提言、V. 研究成果の公開と社会的共有、の5つのステップで展開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代生活において、国境を越えて配信される「映像」のもたらすインパクトはますます大きなものになりつつある。本研究は、「映像」を方法・対象・実践として扱う「映像社会学」の課題をより一層進展させ、既存の映像アーカイブ群を完成・活用し、ネットワーク利用を飛躍的に展開し、国際的な発信を目指した。本研究において展開される映像社会学の実践は、従来の質的社会学の主題と研究実践とを大きく発展させる決定的な契機となるであろう。

従来別個に展開されてきたテレビ番組研究とテレビCM研究の連携・融合こそ不可欠であり、本研究はテレビ番組とテレビCMを統合し探求する初のアーカイブ研究として展開された。

研究成果の概要（英文）：This study was planned and designed with the aim of developing a full concept of the sociology of images in Japan in the age of globalization, establishing it as a field, studying public access to public video archives from a comprehensive perspective, and at the same time refining academic methodology and disseminating research results internationally. The project was developed in the following five steps: I. Collecting basic materials and researching video archives in Japan and abroad, II. Completing the construction of video archives and making them available to the public, III. Identifying individual topics and exploring methods of video sociology, IV. Conducting symposia and proposing public video archives, and V. Publication and social sharing of research results.

研究分野：社会学

キーワード：アーカイブ 映像社会学

1. 研究開始当初の背景

現代生活において、国境を越えて配信される「映像」のもたらすインパクトはますます大きなものになりつつある。本研究は、「映像」を方法・対象・実践として扱う「映像社会学」の課題をより一層進展させ、既存の映像アーカイブ群を完成・活用し、ネットワーク利用を飛躍的に展開し、国際的な発信を目指すものである。本研究において展開される映像社会学の実践は、従来の質的社会学の主題と研究実践とを大きく発展させる決定的な契機となるであろう。

私たちをとりまくテレビメディア環境は、20世紀後半から現在に至るまで、社会や日常生活に圧倒的な影響を及ぼしてきた。テレビ番組・テレビCM・映画・ラジオ番組などは、それぞれの時代人びとが経験した出来事の記録であり、社会の集合的記憶を形成し想起させる文化的・社会的資源と捉えられる。映画100年、ラジオ80年、テレビ50年のそれぞれの歴史を研究するための基礎資料アーカイブを作り上げることは、文化的・社会的資源の形成という重要な性格を持っており、21世紀のデジタル化時代に入り、世界各国で競い合うように推進されている。

日本では、公的テレビ番組アーカイブは主に2つあり、NHK番組を中心とした「NHKアーカイブス(川口市)」と、過去の放送のうち優れた番組やCMを公開する「放送ライブラリー(横浜市)」であるが、どちらの施設も膨大な放送資料のごく一部しか一般公開していない。テレビを始めとする映像メディア研究には資料分析が不可欠であるが、日本においては、研究の分析対象、特に歴史的なメディア文化資料に研究者がアプローチすることが困難な状態が長く続いてきた。

だが、この数年、番組アーカイブを用いたテレビ研究は大きな転換期を迎えている。2009年から、NHKアーカイブスが「トライアル研究提案」の一般公募を開始し、採択研究者限定ではあるものの、それまで局内資料に留まっていた番組データを利用した研究が可能となった(「特集 始動するアーカイブ研究」NHK放送文化研究所『放送メディア研究』第8号、2011年)。2011年には、国立情報学研究所が、実験システムとして構築しているテレビ放送の映像アーカイブシステムを利用し、東日本大震災の社会的影響を学術的な観点から分析する研究の募集を開始した。このように、テレビ番組アーカイブを用いた研究は、急速に推進されつつある。

一方、テレビCMに関するアーカイブ研究では、国際日本文化研究センター共同研究「コマーシャル映像に見る物質文化と情報文化(2004-2006年度)」や、京都精華大学「テレビCM研究プロジェクト」(2007年度～継続中)等が展開されてきており、改めて映像・音声データそのものを基礎資料として用いたテレビCM研究に注目が集まっている。

テレビメディアの成り立ちを考えるならば、公共放送(NHK)のみならず、スポンサーシップによって成立している民間放送の研究はきわめて重要である。しかし、民間放送アーカイブとテレビCMアーカイブの連携は、もっとも立ち後れている分野と言わざるを得ない。従来別個に展開されてきたテレビ番組研究とテレビCM研究の連携・融合こそ不可欠であり、本研究はテレビ番組とテレビCMを統合し探求する初のアーカイブ研究として企画立案される。

2. 研究の目的

() テレビ文化の総合性を反映したアーカイブズの構築

本研究では、これまで代表者・共同研究者が携わってきたテレビ番組およびCMアーカイブを基礎として、テレビメディアが内包する文化の総合性を反映するアーカイブズを構築する。

テレビ文化分析においては、メディア制作者的視点とオーディエンス(視聴者)的視点の両側面を重視する。メディア制作者的視点からの分析には、個別の制作者名のタグ化、公共放送や民間放送、ネットワーク放送やローカル放送といったテレビ放送の実態に基づいたアーカイブ編成が重要である。オーディエンス的視点においては、各番組の放送時期や曜日、時間帯、スポンサーシップ等、時代や社会との関係性、視聴空間(家族構成、間取り、世代、ジェンダー等)との関係性を分析しうるアーカイブ構築が重要である。

() テレビ番組研究とCM分析を統合する視点の探求

本研究は、従来、異なる研究領域(テレビ研究/広告研究)において別個に研究されてきたテレビ番組とテレビCMを、オーディエンス的視点から「テレビ文化」として総合的にとらえるという新しい視点で立案するものである。したがって、両者の研究を統合し架橋するような方法論を確立していくことを目指す。まず、テレビCMのカテゴリー変遷を明らかにする。1953年のテレビ放送初期から1980年代末までを中心に、各年代のテレビCMのカテゴリー変遷を整理し明確化する。また、その背景にあるCM制作技術の進展、社会・経済・産業の成長、番組制作側の理論や意図、視聴者側の意味づけを検証する(-1)。次に、テレビ放送における番組ジャンル形成とCMの相関性を明らかにする。先行研究(高野・難波編 2010)において明らかになった「CMの番組性」「番組のCM性」等の視点を導入し、テレビCMと番組との相関性をさまざまな主題・手法において分析する(-2)。

() 総合的なテレビ映像文化の歴史的・社会的意味の探求

テレビメディアは、主に20世紀後半に人間社会へ普及し、現在ではグローバルな規模の共通

文化をつくりあげている。インターネットやモバイルメディアなど、多メディア状況が進行した21世紀の現在においても、社会的・集合的記憶を形成し、社会変動にかかわるという意味において、テレビメディアは大きな影響力を保有している。テレビ番組とテレビCMの両側面からその影響力をとらえなおす試みは、資本主義社会における情報伝播や文化形成における根本問題を考えることに他ならない。本研究は、20世紀という映像メディアの世紀の歴史的意味を考え、同時に21世紀における映像メディアと社会との関係を、テレビ映像文化を題材に探求する。

() 国際的に発信可能なテレビ文化アーカイブズへの提言

テレビ映像文化は、グローバルな文化伝播にダイナミックにつながる回路であるから、それを対象とする研究成果発信も国際的に行っていくことが重要である。本研究では、国際的に発信可能なデジタルデータ・アーカイブズとしてのテレビ文化アーカイブズを提言し、当該研究領域の国際的展開を目指す。

3. 研究の方法

本研究計画は次の5つのステップで構成する。 . テレビ番組・CMアーカイブズの検証と系統的拡充・整備、 . テレビ番組研究とCM分析を統合する視点の探求、 . 総合的なテレビ映像文化の歴史的・社会的意味の探求、 . 国際的に発信可能なテレビ文化アーカイブズへの提言、 . 研究成果の公開と社会的共有である。

それぞれのステップにおいて収集された資料や作成資料(データ)については、最終的にデータベースに統合し、研究者・研究機関等とのネットワークを構築・拡大し、斯界研究者や教育現場での活用に資することを目指す。また、今後こうしたアーカイブズの拡充ならびに個別構築を念頭に、活用しやすい公的な映像アーカイブズとネットワークデザインの提言を行っていく。

4. 研究成果

本研究は、グローバル化時代における日本の映像社会学の本格的な構想と分野としての確立とを目指して、総合的な見地から公的映像アーカイブ群の公開を模索し、同時に、学術的な方法論の精緻化と国際的な研究成果発信を目的に企画立案されたものである。本研究計画は、研究目的()から()に対応した5つのステップで構成し、各年度において順次推進してきた。

しかしながら、研究年度の後半(2020~2022年度)は、新型コロナウイルスの全世界的流行によって、そのすべての実施に困難が生じ、計画変更を余儀なくされた。そのため、当初の計画を変更し、可能な範囲で研究成果を発表した。

今後の課題とし、さらなる研究展開を目指して行きたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 石田佐恵子	4. 巻 816
2. 論文標題 テレビアーカイブから何がみつかるか:クレイジーキャッツとテレビの 黄金時代	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 92-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田佐恵子	4. 巻 313
2. 論文標題 メディア・スタディーズ :どこで何を学び、どのように活かすか?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シノドス	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山田奨治・高野光平・生貝直人・石田佐恵子
2. 発表標題 テレビCMアーカイブの現状と展望:著作権制度を中心に
3. 学会等名 日本メディア学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石田佐恵子
2. 発表標題 学会ワークショップ メディア研究の領域横断性と学会組織のあり方 ~人的ネットワークの活性化と「新たな知の創造」をめぐる~ (問題提起者1)
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田佐恵子
2. 発表標題 デジタル化時代のマンガと読者の時間
3. 学会等名 台湾日語教育学会 共同開催国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石田佐恵子
2. 発表標題 「大阪広告史データベース・万年社コレクション」の構築とその後 万年社アーカイブとコレクションの関係 ～データベースの持続可能性
3. 学会等名 文化資源学会特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田佐恵子
2. 発表標題 『手と足と眼と耳 地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』によせて
3. 学会等名 シンポジウム「地域と映像アーカイブ」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 石田佐恵子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大阪公立大学文学研究科	5. 総ページ数 78
3. 書名 メディア経験の社会学	

1. 著者名 石田 佐恵子、岡井 崇之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 212
3. 書名 基礎ゼミ メディアスタディーズ	

1. 著者名 石田佐恵子（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪市立大学社会学研究室	5. 総ページ数 180
3. 書名 家族写真の社会学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

万年社コレクション http://ucrc.lit.osaka-cu.ac.jp/mannensha/
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------